

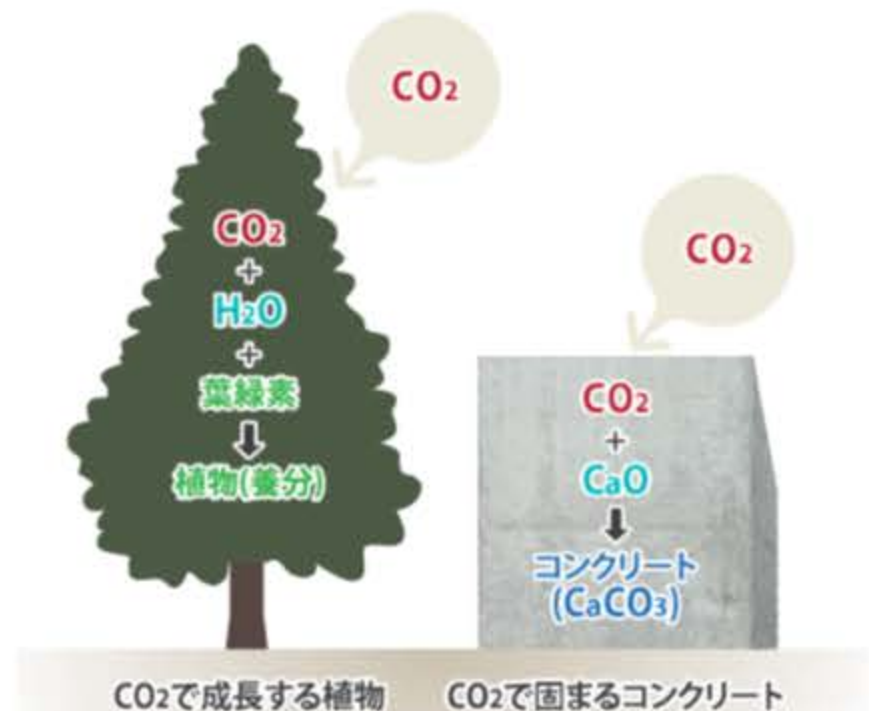
# 鹿島は2050年カーボンニュートラルの実現に挑戦します

鹿島は、持続可能な社会を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの視点でとらえ、カーボンニュートラルに向け取り組んでおり、「鹿島環境ビジョン:トリプルZero2050」を2022年9月に見直しました。新たなCO<sub>2</sub>排出量削減目標として、2021年度比で2030年度に自社排出(スコープ1・2)を40%削減、サプライチェーン(スコープ3)では25%削減を設定しました。2050年度にはスコープ1・2・3でカーボンニュートラル(100%削減)を目指します。また、SBT(Science Based Targets、温室効果ガス排出削減目標に関する国際認証)にコミットしています。



## 植物のようにCO<sub>2</sub>を吸い込むコンクリート

「CO<sub>2</sub>-SUICOM®」は、セメントの半分以上を特殊な混和材( $\gamma$ -C<sub>2</sub>S)や産業副産物などに置き換えることで、コンクリートが固まる過程で内部にCO<sub>2</sub>を大量に吸い込み固定します。CO<sub>2</sub>排出量をゼロ以下に抑制する、究極の環境配慮型コンクリートであり、世界で唯一実用化されているCO<sub>2</sub>吸収コンクリートです。「CO<sub>2</sub>-SUICOM」1 m<sup>3</sup>が製造時に吸収するCO<sub>2</sub>の量は、高さ20mの杉の木が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>に相当します。更なる適用拡大に向けて、現在、供給体制やコスト面、場所打ちへの対応などの課題の解決に取り組んでいます。



## みどりが輝く社会

海域では生物多様性保全やブルーカーボンに寄与する藻場保全・再生技術を開発。陸域では農林水産省の「つなぐ棚田遺産」オフィシャルサポーターとして棚田保全活動を支援。さらに自社の福島県日影山ボナリ山林においてはOECM\*登録を目指し、自然共生サイト(仮称)の実証事業に参画し、認定相当の評価を得ました。

森林、水域や農地がもつ環境・防災等の多面的な機能を活かしつつ、海域から陸域までの保全・再生に寄与し、みどりが輝く社会に貢献していきます。

\* Other Effective area-based Conservation Measures: 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

